

令和8年度島根県立大学短期大学部
学校推薦型・総合型選抜 社会人 帰国生 私費外国人留学生特別選抜
文化情報学科 小論文問題
出題意図

令和7年11月実施

出題意図

文化情報学科では、「短期大学で主体的に考えを進めてゆくために必要な思考力・判断力・表現力を有している人」、「日本と海外諸地域における文化と社会に関する様々な事象に対して興味・関心を有している人」、「地域が抱える社会的・文化的諸課題を共感をもって理解し、その解決に向けて地域の多様な人びとと協働する意欲と態度を有している人」を、求める学生像としている。

課題文には、人間は「判断」するにあたって「簡単に二者択一で判断したい」という欲求を持つこと、一方、学問の営みは「二分法で単純な解釈はできない」と示してきたことが述べられている。さらに、インターネットの世界では、「二分法と二者択一」が専横していると説く。現代社会において真に「思考・判断」し、自らの「興味・関心」を維持しながら他者と「協働」するためには何が必要か。課題文をきっかけに、「学問」とはいかなるものか、「学ぶ」ことの意義とは何かを考えることができる。

本出題では、課題文の説く「学問」を正確に理解したうえで、自身の考えを加味して的確に判断する力、具体的な例を挙げながら思考する力、それらを適切に表現する力を評価する。

以上